

臨時県議会 コロナ対策に158億円余

PCR 検査センター設置へ

スピード感をもって対策強化を 酒井県議が質疑

群馬県議会は11日、臨時議会を開き、新型コロナウイルス対策の補正予算158億円余を可決しました。国の補正予算の受け皿となる施策に加え、感染症患者を受け入れた医療機関に対する助成など、県独自の施策も含まれています。日本共産党は酒井宏明県議が質疑をおこないました。

酒井県議は、PCR検査センター設置の予算について、「ようやく盛り込まれたが、スタッフ不足などハードルをどのように乗り越えるのか」と質問。医師会の協力を得て進める、という県にたいして、「医師会任せでなく、目標を持ってスピード感を持ってやってほしい」と注文しました。

酒井県議はさらに、県が国に先んじておこなった、医療従事者一人最大10万円の特別手当や、1床あたり上限100万円（ICUは200万円）などの感染患者受け入れの医療機関にたいする助成を「率直に評価」しながら、「院内感染によって救急や外来が停止となり、億単位の減収となった病院もある。地域の中核病院の経営に影響があってはならない」「国に対しても全面的な補償を求めるべき」と指摘しました。



主な事業

1. 感染症拡大防止策と検査・医療体制の整備 71億6800万円

①感染拡大防止策 23億1700万円

②検査体制の充実 9億2900万円

③医療体制の整備 39億2100万円

2. 雇用の維持と事業の継続を支援するための取組 50億1900万円

3. 子どもたちが安心して「学び」を続けるための取組 30億4900万円

4. 相談体制や情報発信の充実・強化 1億700万円

5. 機動的対応が必要な事態への備え(予備費) 5億円

※詳しくは県議団までお問い合わせください